

## ゲンチャでカビラ

高橋 誠一

肌が染まるほどに濃厚な緑色が、左右に広がっている。その中を、スロットルをやや開き気味にして走っていた。車はほとんど通らない。思わず口をついて歌が出てくる。風に乗って背後へ流れて行く歌は、もちろん「涙そうそう」である。石垣島出身のビギンと夏川りみの歌である。ついでながら言えば、この夏、彼女と一緒に写真を撮ってもらったという幸運に恵まれた。そんな次第で、リミイの紅白出場が決まったときは、うれしかった。はつきり言って自慢である。学生諸君から「またまた自慢話ですか」と笑われるであろうけれど、それに対しては「ごめん」と言うしかない。

さて、二〇〇二年八月初旬、石垣島のことである。石垣の沖縄県立図書館八重山分館長で詩人でもある砂川哲雄氏にいろいろ教えてもらい、氏の紹介で石垣市立八重山博物館の得能壽美氏にも会って、琉球に関する質問に応じてもらった。砂川氏との出会いは、絵本作家・版画家の儀間比呂志氏から「八重山へ行ったらぜひ会われたらよい。手紙を出しておいたから」との紹介によるものである。

図書館を出て、レンタバイクの店に入った。店主の青年が、あれっという目で筆者を見た。実はこの年の一月

四日にもこの店を利用したのだが、そのときのことを彼は思い出してくれたらしい。

ちよっと話を整理しておくと、筆者はこの数年来、琉球の歴史地理に入れ込んでいる。首里や唐栄久米村のことを論文に書いているうちに、琉球の格子状集落にも興味をいだくようになり、あの塙保己一の曾孫である塙忠雄氏が所蔵していた明治期の古地図の残る八重山の集落復原をめざしていた。幸いにして四月から関西大学国内研究員の恩恵に浴することになったので、それに先立って正月に八重山を回っていた。レンタカーで回りた

いが免許はない。だから青年の店で自転車借りて、石垣、平得、真栄里、大浜、宮良、白保を回ったが、宮良湾沿岸の起伏がきつくて息が切れた。この日の移動距離は三十キロを越えた。正月にもかかわらず汗ばんで帰ってきたおじさんの姿が、印象的であったのであろう。

今回は原付バイクを借りることにした。五月に娘たちが原付の免許を取得して、我が家には二台のバイクが置かれることになったが、どうしても乗りたくなってしまう。でも無免許で捕まったらさすがに具合が悪いであろうから、一所懸命に受験勉強をして六月に原付の免許を取得していたのである。そんなことを話したら、青年は「まだ慣れておられないでしょうから、目立つ色にしましょうね」と言って、黄色のデイオを選んでくれた。

冒頭の場面にもどる。市街地から十五キロほど離れた川平（かびら）へ向かっていた。川平の復原をするためには、どうしても現地で旧道や井戸の場所を確認しなければならなかったからである。「ゲンチャでカビラ」というフレーズが浮かび、絵になるなあの自己満足に浸りながらの道であった。川平に着いて、かつての村番所敷地にある川平駐在所に入った。歴史に詳しい人を紹

介してほしいと思ったからである。

名刺を交換して調査の目的を話すと、新里正一巡査部長は「まず、先生。ドラゴンフルーツがあるけれど食べますか?」。丁寧に遠慮すると、「おいしいですがねー」と残念そうな顔をして、早速いろんな人に電話をしてくださった。ところが古いことをよく知っているという古老は、畑に出ていたり入院中とかで、つかまらない。そこで駐在所を出て、「この人は暇だから教えてもらいなさい」と「かびら観光交通」専務の宮良直全氏に引渡して、パトロールに出発。宮良氏は「暇じゃないけどよー」と言いながらも奥さんと一緒に、古い道や井戸、そして祭りのルートなどについて教えてくださった。あたり一面に泡盛の香りが立ち込めているように感じたが、あるいは気のせいであつたかもしれない。



石垣島フルストバル遺跡にて (2002. 8 .10)

おかげで川平の旧景観が理解できるようになって、その後はバイクで集落を回った。たしかに古い道路の痕跡が列状の畑地として残っている。井戸を指標としての景観復元も可能になって、市街地へ戻ることにした。

今度はビギンの「島人ぬ宝」を口ずさみつつ走っていると、猛追してくるパトカーに気づいた。原付の制限速度はたしか三十キロやったなあと確認し、道路の左側を行儀よく走っていたが、パトカーは前に回りこんで停車を命じた。降りてきた新里さん、「先生、これ食べるさー」と言っ、熟したパイナップルを下さった。

「大丈夫でしたか」との青年の声に迎えられてバイクを返し、ホテルへ戻った。リュックにパイナップルの汁がしみこんでいた。ぬらしたタオルで拭いながら、やっぱり八重山はいいなあと、しみじみ思った。べつに妻や娘たちの目を盗んだわけではないけれど、ホテルの女性にパトカーに追いかけられた話をする、「あのお巡りさん、本島から来た人で、お客さんに食べ物あげるのが好きということで有名な人です。大体、川平に来るお巡りさん、ああいう人が多いみたいです」と言う。なるほどと納得した。あれほど美しい川平に住んだら、誰だって親切になるさーとも思った。